「私立仙台唖人学堂と菅原通先生の想い」

宮城聾史研究倶楽部一同

■宮城県師範学校附属小学校唖生部誕生のきっかけ（明治３５年～３８年）

明治３５年の本県師範学校付属小学校の唖生部付設は短期間ではあったが長野、岡山、高知等の諸県の試みとともに、わが国の盲聾教育史上意義深いものであった。この唖生部の附設は公立としては、京都、大阪、東京についで４番目の特殊教育学校であったことも特筆すべきことである。

この由来について、「東京盲唖教育六十年史」によれば明治２５年８月６日、小西校長（東京盲唖学校）唖生　吉川金造（日本初の聾者自身でありながら聾教師その後豊橋盲唖学校校長となった）同伴仙台市に出張し、国家教育社第二回集会に出席した。小西校長は盲唖教育について講演し、吉川金造は発音演説し、引続き宮城県尋常師範学校にて毎日同地の唖者四人を集め、伊沢修二発音教育を成し、吉川金造その助手を成せり」とあり、小西校長は各地の師範学校長を招いて盲唖教育の実際を参観してもらったり、各地で講演したりしていた。

その悲願が明治２５年以来ゆかりのある本県当局の理解と英断によって宮城県師範学校付属小学校唖生部として実った。しかも東京にいた本県出身の菅原通氏が東京盲唖学校から招かれ、情熱を傾けて本県聾唖生の教育に当たったということは、本県聾唖児にとってまたとない幸運だった。

■私立仙台唖人学堂時代（明治３９年～４５年）

校舎が狭くなったとの理由から聾唖教育は慈善家の手に任すべきであるという誤った考えに強く支配されて三年六ヶ月で閉鎖になったが、学半ばの聾唖生を見捨てかねた菅原先生は自宅を解放して、私立仙台唖人学堂とし生徒を収容した。世間から冷たい目で見られたが、菅原先生は聾唖児に手真似（寺子屋手話法）国語（筆談）も教えた。

この唖人学堂は宮城県から補助金３００円と若干の月謝の他は菅原先生の私財によって運営していたが、経営難を感じ、公立のものとして完備すべきと思い、宮城県並びに仙台市当局に対して要望を行なった。公立の盲唖学校の設立を熱望し、やっと通じて大正３年４月時の知事森正隆氏の手によって宮城県立盲唖学校を創立することになった。宮城県師範学校附属小学校唖生部設置から１２年、私立仙台唖人学堂開設から８年で在校生徒男女１７名は宮城県立盲唖学校に移り、本県聾唖教育史の上に偉大な足跡を残した私立仙台唖人学堂は閉鎖になり、菅原先生もまた同時に同校の講師を嘱託されて、引き続き唖生を指導していたのであったが、大正６年３月退職した。

★本県聾唖教育の創始者　菅原　通先生と聾教育との出会い

明治３２年４月、東京市京北中学校に赴任した先生は東京盲唖学校の付近に居住していた。朝夕通学する盲児や聾唖児に出会ったり、校庭で遊ぶ様子を眺めたりしている中に明朗、天真爛漫な聾唖児に親しみを覚え興味を感じるようになった。初めは自己流の手真似や身振りで話しかけたりしたが、だんだん通じるようになって彼等を深く愛するようになった。

又、当時の東京盲唖学校長小西信八先生と国語の会や歌のつどい等親しくなり、余暇には学校を参観したり、小西先生の我が国の盲唖教育論などを拝聴した。

アメリカ、ドイツ、フランスの盲唖教育を視察して帰朝したばかりの小西氏は欧米の盲唖教育に比してわが国のこの教育の不振を説いたら、菅原先生も共鳴して聾唖教育への関心を持つようになり、「身を投じてこの教育に捧げる」心が涌き出た。そして明治３４年、京北中学を辞して東京盲唖学校に転じ、熱心な小西校長の指導のもとに毎日授業の参観、指導法の研究に打ち込んだ。

同年、東京盲唖学校の訓導に任命された。そのころは本県にも盲唖教育創始の光が見えてきて、宮城県師範学校長里村勝次郎氏からしばしば小西校長に相談があったので、喜んで郷土人である菅原先生に明治３５年宮城県への出向を命じられた。

同年、宮城県師範学校附属小学校唖生部の主任となってから毎日の夜を唖生の教育の為に研究を積み、その成績にみるべきものがった。しかし、問題点を背負いながらも宮城県師範学校附属小学校唖生部～私立仙台唖人学堂まで聾唖児を愛し見守りながら…大正６年限りでこの場から去った。

老後の菅原先生は若い頃から仏教を信仰することが厚く、寺院の閑寂を好み、仏教の研究をしていたり、読書したり……昭和１３年に７７歳でこの世から去られった。

★本県聾唖教育の恩人であり、開拓者である菅原通先生のことを忘れてはならないことを……知って頂きたいです。

■宮城県立盲唖学校　外記丁時代（大正２年～１１年）

大正２年本県に任じた知事森　正隆氏は関係者の切なる要望に応え、設立に尽力し同年の県会にて可決された。森知事は秋田県出身という偶然であるのは、初聾教師となった山中忠太郎先生も秋田県出身で秋田県に居た時からも顔知り合いだった。創立当時は教唖部普通科は男女１８名であり、唖人学堂から転入者１７名、新たな入学者１名で学習歴によって一学年から五学年まで入学させ年齢は８歳から２０歳までであった。大正５年３月に第一回卒業生は教唖部　小西幸次郎、中村賢治さん。当時の教育法は教唖部にあたっては昭和９年に同校口話教育を導入するまでは専ら手話法（手まね）により、また指文字及び筆談を併用していた。

■北七番丁時代（大正１２年～昭和９年）

宮城県立盲唖学校が独立し新築校舎へ移転したのは、開校以来１２年目のことである。いよいよ進展期に入ろうとする当時の全国の盲唖在学児童生徒の就学率は、わずかに１２％であった。初等部６年、中等５年を条例規定された文部省令が「公立私立盲学校及び聾唖学校規程」で定められた為に、盲・聾教育制度の内容と活動が盛んになった。「日本聾唖教育会・口話普及会の結成」「教員養成と現職教育」「聾者の社会的活動」（盲唖学校における職業教育は洋服科、理容科、聾唖者の職業開拓分野が広くなった。）「聾唖者の組織」（先に作り上げた大阪市立聾唖学校長高橋潔氏（本県出身）らのあっせんにより、聾唖学校の卒業生の全国組織が生まれた。昭和８年、職員は聾唖部３名がすべて聾唖の先生（山中、山川、加藤）であったのを見て赤木校長は職員の増員をはかるとともに特に特殊教育の重要性を考えて毎年２～３名ずつ若手を採用したり、技能科の向上を目指した。

昭和９年、全国中も聾口話教育が広がった時は本県盲唖学校が創立されてからちょうど２０年目になったとのことである。

■東九番丁時代（昭和１０年～２２年）

赤木校長と職員あげての努力により、入学生徒数が増え、昭和十年度は盲聾合わせて１００名（盲生３４名・聾生７０名）を突破するようになった。移転当時の規模は５９５坪であったが、昭和１８年に至るまでに校地はおよそ２倍の１６００坪になり、校舎増築、寄宿舎の新築、講堂の建設（阿部亀吉寄付）と目覚しい施設の拡大と共に、赤木校長は改革研究を立案した新学則を制定された。

しかし、口話法が導入されて受持ちが手話学級のみになったため止む無く聾教師である山中先生、山川先生、加藤先生は惜しくも退職した。

盲聾教育について世人の関心を高めたのは忘れもしない国内各地を巡講した三重苦の聖女ヘレン・ケラー博士が来仙（昭和１２年６月３０日・７月１日）した時で先生方も盲・聾唖児も感動興奮だったとの事。戦時下は盲聾唖部（中等部職員生徒・同窓生）は陸軍病院を慰問して戦傷病者に対してマッサージの奉仕を行ない、又は聾唖部理髪部も同様に理髪の奉仕を続けたことは周囲から讃辞を得た。又、寄宿舎の経営と食糧の供給に大きな難題になり、昭和２０年になって戦争が激しくなり、盲聾教育の機能が低下してきた。空襲警報下にあっても教育は続けられたが、７月は仙台空襲を受けたが、本校は戦災から免れて盲聾生徒の安全を考えてみて栗原郡の能持寺を借りた疎開学寮を開いた。昭和２０年８月１５日は終戦後、１０月末に東九番丁校舎へ復帰した。

★年代史（明治３５年～昭和２０年）

明治３５年（１９０２年）
　９月１１日　菅原通氏が宮城県師範学校付設唖生部担任に就任
１０月１０日　宮城県師範学校附属小学校内に唖生部を開設、授業を開始する
明治３９年（１９０６年）
　３月３１日　師範学校附設の唖生部を廃止
　４月　６日　菅原通先生、杉山通12番地に私立仙台唖人学堂を開設、授業を開始する
明治４２年（１９０９年）
　３月　　仙台唖人学堂、北四番丁７番地に学堂新築移転
大正２年　（１９１３年）
１１月　　「宮城県立盲唖学校設立の儀」県会で議決し、外記丁宮城県師範学校構内に校舎新築の設計なる
大正３年　（１９１４年）
　４月２４日　文部大臣の設立認可を得て、宮城県立盲唖学校を設立（本校創立）名称、位置、開校期を告示・宮城県立盲唖学校学則制定
　　２８日　宮城県師範学校長樋泉慶次郎氏が兼校長事務取扱に就任
　５月　１日　宮城県立盲唖学校職員職制制定
　　★初聾教師となる山中忠太郎氏（大正３年～１０年５月）が訓導（教唖部普通科）に就任
　５月１３日　私立東北盲人学校及び私立仙台唖人学堂生徒措置に関する件指令
　５月１５日　開校式及び入学式挙行（生徒数　訓盲部１０名、教唖部１８名）
大正　５年（１９１６年）
　３月２５日　第一回卒業式挙行（卒業生　訓盲部１名、教唖部２名）
大正　６年（１９１７年）
　６月２８日　宮城県師範学校長児崎為槌氏が兼校長事務取扱に就任
大正　８年（１９１９年）
　８月１０日　★二代目聾教師となる山中福よ氏（大正８年～昭和１２年３月）が訓導に就任
１１月１９日　宮城県師範学校長柴垣則義氏が兼校長事務取扱に就任
大正　９年（１９２０年）
　４月　　★嘱託となる聾者山川　廣氏（大正８年度初等部卒・大正９年～昭和１０年２月）が就任
大正１０年（１９２１年）
　１月１５日　聾唖部同窓会前身、河北聾唖睦会設立

大正１２年（１９２３年）
　３月３１日　訓導兼書記四竈仁爾氏が校長事務取扱に就任
大正１３年（１９２４年）
　３月３１日　校長事務取扱四竈仁爾氏が初代校長に就任
　７月２７日　日本聾唖協会宮城部会設立
大正１４年（１９２５年）
　９月１４日　北七番丁に校舎新築移転
　１０月１８日　校章制定、校旗樹立（山川　廣氏筆）（山梔（くちなし）の花弁に点字の六点を配して、唖と盲を表徴したもの）
昭和　５年（１９３０年）
　７月　１日　聾唖部同窓会設立
昭和　７年（１９３２年）
　７月　★嘱託となる聾者菊地（加藤）常太郎（大正１１年度初等部卒後東京盲唖学校へ転校・昭和７年～１２年３月）が就任
昭和１０年（１９３５年）
　８月３１日　東九番丁に校舎移転
昭和１２年（１９３７年）
　４月　１日　中等部設置　聾唖部中等部木工科・裁縫科を新設
　７月　１日　ヘレン・ケラー女史来校　帽章・校章制定
昭和１３年（１９３８年）
　４月　１日　聾唖部中等部に理髪科、洋裁科を新設
　１０月１４日　寄宿舎増築落成
昭和１４年（１９３９年）
　９月　１日　校歌制定
　１０月　５日　創立２５周年記念式典挙行
昭和１６年（１９４１年）
　３月　１日　「国民学校令」公布
昭和１８年（１９４３年）
　９月３０日　校舎増築並びに寄宿舎新築工事竣工
昭和１９年（１９４４年）
　４月２４日　創立３０周年記念式挙行
昭和２０年（１９４５年）
　７月２１日　栗原郡宮野村能持寺に疎開
　８月１５日　終戦

転載した資料

「宮城県教育１００年史　１～３巻」
「宮城県立聾学校同窓会創立６０周年記念誌」
「宮城県立聾学校六十年史」
「宮ろうの歩み創立７０周年記念誌」
「宮城県立ろう学校創立８０周年記念誌」
「盲聾教育八十年史」
（無断コピー・転載はしないで下さい）

学校の足跡地

①宮城県師範学校附属小学校唖生部（明治３５年９月～３９年３月）
②私立仙台唖人学堂（明治３９年～大正３年５月）
③宮城県立盲唖学校外記丁（大正３年５月～１４年９月）
④宮城県立盲唖学校北七番丁（大正１４年９月～昭和１０年８月）
⑤宮城県立盲唖学校東九番丁（昭和１０年８月～昭和２５年）
⑥宮城県立ろう学校八本松（昭和２５年～現在）

菅原通先生年表

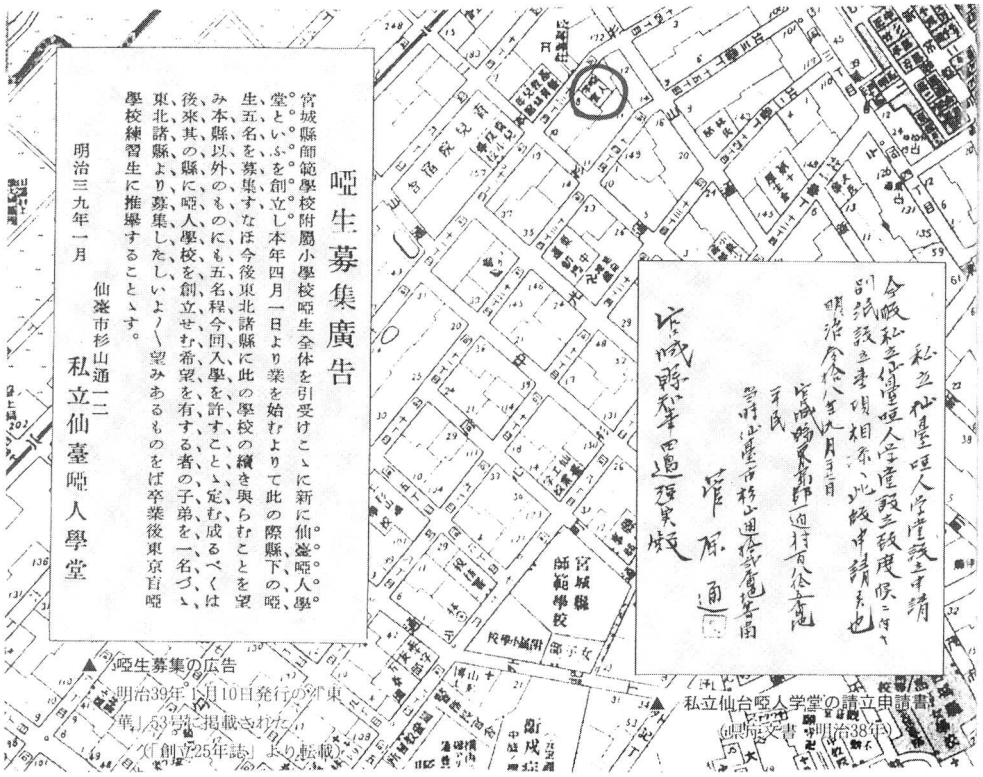
文久２年２月17日		宮城県栗原郡一迫村に生れる。
明治12年４月	18歳	宮城師範学校に入学
明治14年３月	20歳	宮城師範学校卒業
明治14年４月	20歳	宮城郡内小学校に奉職
明治16年８月８日	22歳	栗原郡輝井小学校長兼訓導、梅崎、若柳小学校長兼訓導
明治23年	29歳	上京して東洋大学の哲学館入学
明治25年11月	31歳	栗原郡真坂小学校長兼訓導
明治30年４月	36歳	簡易商業学校（仙台商業）助教諭（国漢）
明治32年４月１日	38歳	東京京北中学嘱託教授
明治34年５月13日	40歳	東京盲唖学校訓導
明治35年９月11日	41歳	宮城県師範学校訓導・附属小学校唖生部主任
明治39年３月31日	45歳	宮城県師範学校附属小学校唖生部廃止
明治39年４月６日	45歳	私立仙台唖人学堂開設（自宅）
明治42年３月	48歳	隣地北四番町移転
大正３年４月	54歳	宮城県立盲唖学校創立・私立仙台唖人学堂閉鎖
大正３年５月10日	54歳	宮城県立盲唖学校講師
大正５年３月	56歳	同校退職
大正10年	61歳	石巻市海門寺住職
昭和13年12月11日	77歳	逝去

山中福よ先生年表

明治27年９月16日		神田区新銀町（現在は神保町）に生れる。
明治34年４月	７歳	尋常小字校入学　高熱の為、聾となる。
明治39年４月11日	13歳	官立東京盲唖学校へ入学
明治43年	17歳	専修科3年・模範生となる。
明治44年	18歳	裁縫師範科入字
大正　元年	19歳	師範科卒業後、母校の教員となる。
大正７年６月10日	24歳	母校の教員を辞める。
大正７年６月17日	24歳	三浦浩先生宅にて山中忠太郎先生と（宮城県立盲唖学校ろうあ部数員）結婚式を挙げる。
大正７年　秋頃		山中忠太郎先生は肺結核の為に休暇する。
大正８年８月10日		山中福よ先生に正式の教員となる辞令を受ける。（本校二代目聾教師となる）家事、校務、看病…過労で倒れて入院療養する。
大正15年11月22日	33歳	夫忠太郎さんは病死。

昭和12年３月	44歳	宮城県立盲唖学校にて退職する。（17年間で勤めたが口話教育普及の為に泣く泣く）
昭和12年３月30日		東京へ帰る。
昭和16年９月	48歳	私立松本聾唖学校の小岩井先生より依頼され、勤める。
昭和33年４月	65歳	脳出血で倒れる。
昭和46年10月24日	77歳	心不全で逝去

私立仙台啞人学堂時代



▲啞生募集の広告
（明治39年1月10日発行の「東華」53号に掲載された「創立25年誌」より転載）

▲私立仙台啞人学堂の請立申請書
（県庁文書 明治38年）

（明治39年～大正３年）

▲ 菅原通先生と啞人学堂の児童　明治39年（1906）菅原通は杉山通の自宅を教室にして授業を開始した

宮城県立ろう学校　８０周年記念誌より転載